

毛越寺（嘉祥寺跡）

嘉祥寺跡は、かつての毛越寺の本堂であった金堂円隆寺の西側に立っています。

この場所に残る巨大な石は、嘉祥寺のもとの基礎である礎石です。嘉祥寺は、毛越寺以前に建てられたと推測されています。嘉祥寺には本堂と同じ、苦悩や病気を癒す仏である大きな薬師如来像を祀っていたとされます。

鎌倉時代（1185–1333）の歴史書で、武家の歴史について詳しく叙述した「吾妻鏡」は、藤原基衡（1105–1157年）が嘉祥寺の建設を始め、息子の藤原秀衡（1122–1187年）が完成させたと記しています。

隣接する毛越寺の金堂円隆寺とほぼ同じ大きさであることから、祈りの場として使われていたのではと考えられています。